

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	令和2年度 第1回嬉野市の国民健康保険事業の運営に関する協議会		
開催日時	令和2年8月27日(木) 10:00~11:30		
開催場所	嬉野市中央公民館 大集会室		
傍聴の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	犬尾委員、古河委員、坂口委員、池田委員、 光武委員、栗山委員、古賀委員、森田委員、 藤山委員、藤田委員、宮田委員	
	事務局	市長、市民福祉部長、健康づくり課長 同課副課長、同課主任、同課主事	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	第1回嬉野市の国民健康保険事業の運営に関する協議会資料		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
議 題	第1号 嬉野市国民健康保険事業の状況について（報告） 第2号 令和元年度嬉野市国民健康保険決算の状況（報告） 第3号 その他		
内 容			
審議経過	市長	（委嘱状交付） 4月1日付樋口委員から近藤委員、谷口委員から光武委員、蒲原委員から宮田委員に委員交代したことによるもの。	
	市長	（市長あいさつ）	
	会長	（会長あいさつ）	
	事務局	（会議成立の報告）	
	会長	（会議録署名委員の選任） 署名委員を保険医代表として古賀委員、被保険者代表を藤田委員に選任してよいでしょうか。	
		《異議なし》	
	事務局	議題第1号「令和元年度の嬉野市国民健康保険事業の状況について」説明 （国保加入状況） 国保加入数は、年々減少傾向が続いていまして、令和元年度平均世帯数は3,518世帯、平均の被保険者数は5,896名です。	
	事務局	（税率及び収納状況について資料より説明） 令和元年度の収納率は94.38%で前年度と比べ0.36ポイントの増です。滞納繰越分では、収納率が17.31%で前年度と比較して、0.05ポイントの減です。 平成30年度以降の税率は、県より示される当市の標準保険税率	

審議経過	事務局	<p>を参考に、当協議会でご審議いただき、令和2年度で改定しましたが、平成30年度から令和元年度間では税率は据え置きでした。平成30年度から令和元年度の税率等変更点は、課税限度額分で医療分が3万円の増となり、全体の賦課限度額が96万円となっています。</p>
	事務局	<p>(国保の保健事業)</p> <p>国保人間ドック・脳ドック事業について。これは国保の方の30歳から65歳までの方の中で5歳刻みの対象者に対して実施をしている事業です。若年者の受診が少ない状況です。</p>
	事務局	<p>(特定健診事業)</p> <p>例年通り個別健診と集団健診、毎日健診を行っています。対象者は、4,088人、そのうち2,049名の方に受診していただき、受診率は7月31日の速報値で50.1%です。令和元年度は業者委託で行った未受診者勧奨事業と医療機関の皆さまにご協力いただき未受診者健診の回数を1回増やしたことにより受診率が大きく上がり毎年掲げている市の目標値に初めて到達することができました。</p> <p>特定健診の結果からは男性・女性どちらも「血糖異常」の方が多い結果となっており、前年度と比較しても男女とも約10%上昇しました。これまで以上に糖尿病の重症化予防に取り組んでいかなければと思っています。</p> <p>特定保健指導は特定健診を受けられた方のうち10.1%である207名が対象で前年度から30名ほど増えています。最終評価まで終了した方の割合は57.0%で、まだ終了していない方がいらっしゃるので、こちらも最終評価を済ませ実施率をあげたいと思います。</p>
	事務局	<p>(令和2年度の事業計画)</p> <p>特定健診のうち集団健診は昨年から回数を1回増やし、全6回実施します。未受診者健診も昨年同様10月と1月に実施します。昨年度の新たな取り組みとして行った未受診者勧奨事業も継続し対象者に合わせた個別通知を未受診者健診前の2回発送します。</p> <p>特定保健指導について、今年度は訪問に力を入れており、より対象者の生活状況が見える自宅にて保健指導を実施します。</p>
	委員	<p>区長職に対して特定健診受診勧奨協力の要望がされますが、どういったことをすればいいですか。</p>

審議経過	事務局	<p>地区には国保の方ばかりではないので声をかけづらいというご意見をいただいておりますが、地区で集まる機会に国保ではこういった取り組みをしているといった声掛けをお願いしているところです。</p>
	事務局	<p>議題第2号 「嬉野市国民健康保険決算の状況について」説明</p> <p>国民健康保険税全体の歳入に占める割合は、わずか16.8%で、歳入のほとんどが県からの交付金で賄われている状況です。</p> <p>歳出については、保険給付費、高額療養費、療養給付費等含めて保険給付の支払いが68.9%を占めているということで、今後税の収納率を上げるという目標で歳入を増やししながら、県への納付金の負担額を下げるため、医療費が増加しないよう、更なる医療費適正化のため、保健事業等の取り組みが必要になると思っています。</p> <p>国民健康保険税の決算総額は前年度より減額になっています。収納率は上がっていますが、被保険者の減少などにより、国保税を課税して受け入れる調定額の金額自体が減少しているということもあり、収入額が減少している状況です。繰入金は、一般会計からの繰入が930万程の減です。主なものとしては、財政安定化支援事業費及び出産育児一時金の減によるものです。</p> <p>国民健康保険基金繰入金は、1,680万程の減です。平成30年から県広域化となり財政運営の主体が県になったことにより、市の負担が軽減されたため、基金の取り崩し額が少なくなったことによるものです。</p> <p>繰越金は30年度国保会計からの決算剰余金を1億3,993万1千円計上しています。</p> <p>歳出について主なものは保険給付費です。令和元年度と比較すると6千900万程度の増額となり国保加入者が減少している中、本来であれば医療費は下がるかと思われますので、1人当たりの医療費は上昇しています。</p> <p>保健事業費は、700万円程度の増額です。令和元年度より新たに特定健診の受診率向上を目的として未受診者勧奨事業を業者に委託して実施しており、委託費用及び受診勧奨により受診率が伸びたことが増の主因です。</p> <p>令和元年度決算の歳入総額の36億9,772万9,865円に対し、歳出合計は36億6,917万7,689円で、『歳入・歳出差引額』収支が2,855万2,176円という決算です。</p>
	委員	<p>最終予算と決算額はどのような違いですか。</p>

審議経過	事務局	年度途中の補正があるのですが、最後の3月補正を反映した予算が最終予算です。余剰金については来年度に繰越して保険給付費にあてたり、基金に積み立てたりします。
	事務局	被保険者数が減少しているが一人当たり医療費は増えているという説明の補足ですが、嬉野市国保の被保険者数が年々200人くらい減っています。その中で65歳~74歳以下の被保険者数は年々増えています。被保険者数5,761名のうち65歳~74歳以下いわゆる前期高齢者の割合が44.54%となっています。この層の方が増えているということは、医療費を多く使う方々が増えていることとなります。これが、被保険者数が減っているが医療費が増えている要因といえます。この層の医療費増を抑えるためにも保健指導等を強化したいと考えています。
	委員	団塊世代の被保険者が後期高齢者医療保険の対象となる2025年問題ですが、これについてどのように推計されていますか。
	事務局	現在の年齢構成にあわせて1歳刻みで推計されています。75歳以上の後期高齢者医療については、佐賀県後期高齢者医療広域連合が主体となり運営しており、市町では窓口業務を行っています。
	会長	議題のその他について事務局からお願いします。
	事務局	議題（3）『今後のスケジュールについて』説明 『マイナンバーカードの健康保険証利用についての周知』 (閉会)